

キーボードのタイピングの速さや正確さを競う全国大会で活やくしている小学生がいます。高知市の泉野小6年、川崎瑛心さん。この秋、二つの全国大会に出場し、優勝と準優勝にかがやきました。「強い人と戦えるのがうれしいし、楽しかった。中学生になったら英語のタイピングもやりたい」と笑顔で話しています。

高知市泉野小6年

川崎さん



タイピングが全国大会で活やく

川崎さんが初めてタイピングをしたのは3年生ごろ。学校のタブレットのキーボードで、人さし指だけを使いゆっくり打ち始めました。練習を重ね、「ホームポジション」(指を置く基本的な場所)を覚えて速度がアップ。5年生のとき、周りでタイピングが大ブームになったのも上達につながりました。

昨年、県内の子どもらが競う「高知家タイピング選手権」高学年の部で優勝。これをはじめ、今年プログラミング教育HALLOの「タイピングチャレンジカップ」、小学生タイピングコンテスト「デジタル・ノヴァ・アワード2025」という二つの全国大会にいどみました。

正しく速く打つ力

大会では、画面に表示された「馬の耳に念仏」などの文字を正しく速く打つ力を競います。東京で行われた「HALLO」の決勝戦は、チーム戦。初めて会った県外の小中学生2人とチームを組み、協力して優勝をつかみ取りました。一方、福島県で行われた「デジタルー」は、個人戦。好調に勝ち進み、強ごうの5年生との決勝へ。おしくも準優勝となりましたが、「相手が喜んでいるのを見たらうれしくなって、『優勝おめでとう』と言った。気持ちよく帰りました」とさわやかにふり返りました。

学級会で書記の仕事も

川崎さんは、タイピング練習教材で1秒間に15タイプほどの速さで入力。友達に「どこを打ってるか見えん」とおどろかれます。そのうでを見こまれ、学級会では書記の仕事を任されることも。「打つのが速いき、みんなの意見をまとめて、ってたまに呼ばれるとうれしいです」

今年も、12月12日まで開かれている「高知家タイピング選手権」に出場中。「もちろん優勝を目指しています!」。目がキラッと光りました。

(松田さやか)

感想を送ってくれたよ

もっと速く正確に

★高知市・泉野小★

ぼくは、高知家タイピング選手権で1位になって自信がついたので、大会に参加してみることにしました。夏休み中に二つの大会のオンライン予選に参加し、二つとも予選を突破でき、東京と福島県での決勝大会へ行ってきました。

東京での大会は、初めて会った人とチームを組んで団体戦でたたかいました。慣れないキーボードで思うような記録を出すことができませんでしたが、優勝できました。福島での大会は、個人対戦でした。予選リーグは全勝で決勝トーナメントへ進みました。決勝戦ではとったりとられたりを繰り返して、最後の最後で負けてしまいました。とても悔しかったけ

れど、準優勝できてうれしかったです。大会はとても緊張したけど、友達もたくさんできてタイピングを楽しむことができました。飛行機や新幹線に初めて乗ることができたし、東京も福島も初めてでうれしかったです。良い思い出と経験ができました。これからも頑張ってもっと速く正確に打てるようになりたいです。(6年、川崎瑛心記者)